



平成29年11月21日  
中部地方整備局  
港湾空港部  
名古屋港湾事務所  
三河港湾事務所

## アフリカの発展のため国際協力に貢献しました ～ J I C A 研修員が三河港・名古屋港を視察～

中部地方整備局は平成29年11月15日～16日、J I C A（独立行政法人国際協力機構）が実施している「港湾物流効率化（アフリカ地域）」研修で来日している各国研修員を三河港及び名古屋港に迎え、優れた中部の港を紹介しました。

### 1. 概要

中部地方整備局では、J I C Aとの連携による国際協力を積極的に推進しています。本視察は、研修参加者各国の公的機関において港湾運営に係わる部署の方を対象に、研修員の自国での課題を踏まえ、本研修における講義や視察を通じ、自国での戦略的な港湾の計画、管理運営への導入・応用等を検討するためのものです。主な視察として、完成自動車の輸入台数及び金額が日本一である三河港においては新車整備センター、名古屋港では日本初の自動化コンテナターミナルの視察を行いました。

### 2. 実施内容等

実施日：平成29年11月15日（水）～16日（木）

場所：三河港及び名古屋港

受講者：11名（以下のアフリカ地域の7カ国より来日）

ベナン共和国、コートジボワール共和国、コンゴ民主共和国、モザンビーク共和国、セネガル共和国、南スーダン共和国、タンザニア連合共和国

目的：研修員の港湾計画策定能力・港湾管理運営能力の向上のため、講義や視察を通じて日本での取り組みを把握するものであり、三河港においては我が国の輸入完成自動車の効率的な輸送・管理、名古屋港においては自動化によるコンテナターミナルの効率的な管理・運営を視察します。

### 3. 研修の様子

別紙 ※研修の状況写真をご希望の場合は対応しますので、お問い合わせください。

### 4. 配布先

中部地方整備局記者クラブ、中部専門記者会、名古屋港記者クラブ、豊橋市政記者会、港湾新聞  
港湾空港タイムス、日本海事新聞、海事プレス、マリタイムデーリーニュース

### 5. 問合せ先

中部地方整備局 港湾空港部 クルーズ振興・港湾物流企画室

室長 赤石（あかいし）、課長補佐 大平（おおひら）

Tel 052-209-6330 Fax 052-203-9739

## 研修行程及び研修の様子

### ■行程

三河港 平成29年11月15日(水)

- 13:30～14:10 【概要説明】三河港の概要説明  
場所：ポートインフォメーションセンター「カモメリア」  
住所：豊橋市神野ふ頭町3-29
- 14:20～14:50 【視察】カモメリア展望台より三河港を見学  
場所及び住所：同上
- 15:00～16:00 【視察】ボルボ・カー・ジャパン(株) 新車整備センター ※1

※1：新車整備センター（VDC（Vehicle Distribution Center））では日本に到着した車を整備し、顧客の納車日に合わせて全国の正規ディーラーに出荷します。

名古屋港 平成29年11月16日(木)

- 11:00～12:00 【概要説明】名古屋港の概要説明  
場所：中部地方整備局 名古屋港湾事務所  
住所：名古屋市港区築地町2番地
- 13:10～13:40 【視察】海上交通センターより名古屋港を展望
- 14:00～14:20 【視察】集中管理ゲート ※2
- 14:30～15:30 【視察】飛島ふ頭南側コンテナターミナル※3

※2：集中管理ゲートとは、コンテナターミナルのゲート毎に行っている貨物の確認業務を分担し処理する施設です。集中管理ゲートで情報処理、貨物の確認業務を大部分実施することで各ゲートでの作業が少量化しスムーズとなり、ふ頭内の渋滞が緩和するなど、物流の効率化に寄与している施設です。

※3：飛島コンテナ埠頭(株)が運営する日本初の自動化コンテナターミナルです。コンテナを無人で搬送する自働搬送台車、ラバータイヤ式ガントリークレーンを導入しています。

### ■視察の様子

11月15日の三河港見学では港湾に隣接している施設の優位性、完成自動車の輸入台数及び金額が日本一になった経緯などの説明を聞き、ボルボ・カー・ジャパン(株)を訪問し、新車整備センターでの輸入車の整備状況の一連の工程を見学しました。

11月16日の名古屋港においては、名古屋港の概況を学んだ後、飛島コンテナ埠頭(株)の自動化コンテナターミナルを見学しました。研修員は、世界初、日本初の自動化設備の生み出す効率性に大変興味を持っていました。

研修員の方々は大変熱心で、移動中のバスの中でも当地域の港湾に関する質問が多く出ていました。研修を通じての関心は、港でどのような貨物が扱われているか、どのような荷役がなされているか、資金調達の方法、施設運用形態、その効率性など多岐にわたっていました。

港の現場視察時には、海外の方には日本の港が埋立で発展してきている歴史が不思議に写るようで、“ここも埋立ですか！？”と感心していました。

(視察時の様子(写真))

11月15日 三河港



三河港の概要説明を聞く研修員



三河港「カモメリア」展望台にて



ボルボ・カー・ジャパン(株) VDCにて

11月16日 名古屋港



名古屋港の概要説明を聞く研修員



飛島ふ頭南側コンテナターミナルにて

(視察後の感想)

タンザニアのダルエスサラーム港で、コンテナ、RORO、バルク等の種々の貨物のオペレーションをしている部署のマネージャーであるマブラさんに感想をお聞きしました。

三河港について、『ダルエスサラームでも、延長 350m、水深 15m の自動車専用船用の岸壁が整備中であり参考になります。現在、日本からの中古車の輸入は非常に多く、自動車専用船は 1 週間に 4~5 隻入り、1 隻で 600~2000 台の車を降ろしています。今日見学したボルボ・カー・ジャパン (株) の VDC では各工程の道具等が整然と整理され、効率的に次々と整備されていました。車好きなので、素晴らしい車を見ることができて大変嬉しかったです。』とのこと。

また、名古屋港については『飛島コンテナ埠頭 (株) のコンテナターミナルは非常に素晴らしい施設、テクノロジーで感銘を受けました。経営的な面も含め、他の模範となる施設です。今後のコンテナターミナルのあり方を見たという思いです。』と述べられました。